

(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかな改善傾向にある。

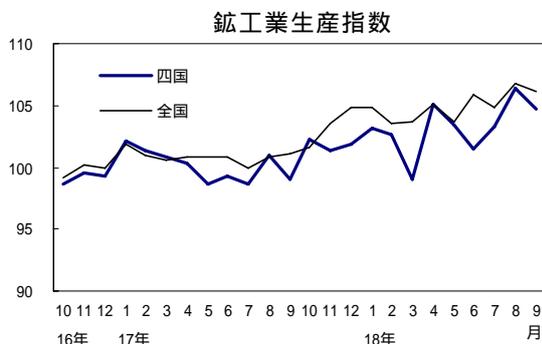
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 8 月）	今回（平成 18 年 11 月）	
雇用情勢	改善傾向にある	緩やかな改善傾向にある	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

パルプ・紙は、新聞巻取紙が増加したものの、トイレットペーパー等の値上げに伴う駆け込み需要の反動減から衛生用紙が低調だったため、全体では減少している。食品・たばこは、冷凍食品や調味料、肉製品等が好調だったことから、増加している。電気機械は、液晶ディスプレイメーカーにおける在庫調整の動きから放電ランプ等が低調だったものの、海外の携帯電話メーカー向け需要がおう盛な蓄電池や、国内設備投資の増加を背景に開閉式制御装置が好調だったため、全体では増加している。化学は、引き続き製造工場定期検査が行われたこと等によりBTX（ベンゼン、トルエン、キシレン）や触媒が減少したものの、医薬品や中国向け需要が引き続き好調なカプロラクタム（ナイロンなどの原料）等が寄与し、全体では増加している。一般機械は、半導体製造装置等が増加したものの、化学繊維機械や基礎工事用機械等で生産サイクルの谷が重なり、全体では減少している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年9月の四国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

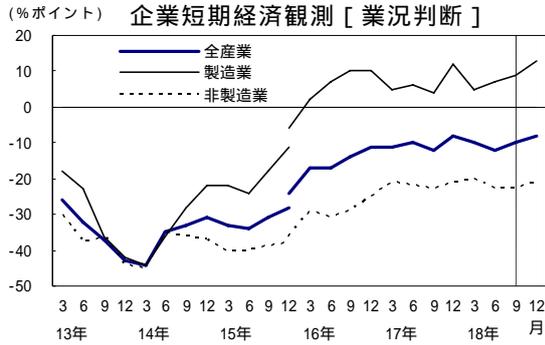
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
パルプ・紙	13.3	0.5	1.4	2.5	0.8
食品・たばこ	13.3	1.8	1.6	3.4	7.9
電気機械	12.8	8.6	1.3	3.2	9.1
化学	12.7	7.2	8.8	7.1	2.5
一般機械	11.3	6.9	6.8	7.3	4.1
鉱工業	100.0	1.7	1.5	0.4	1.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

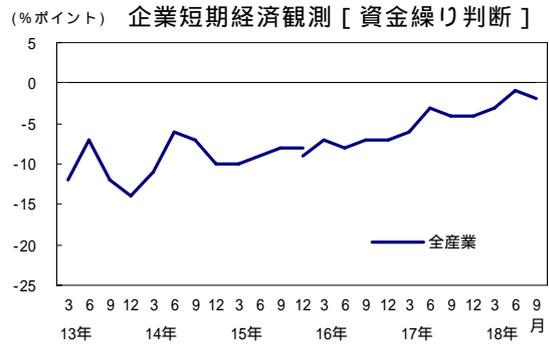
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

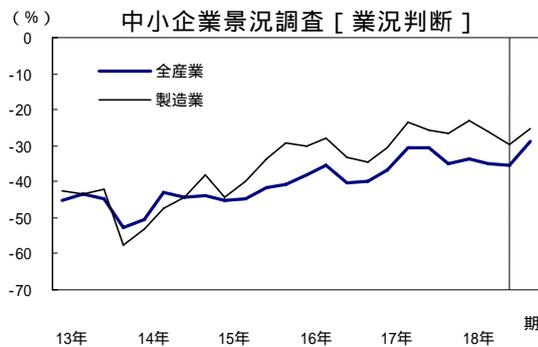
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

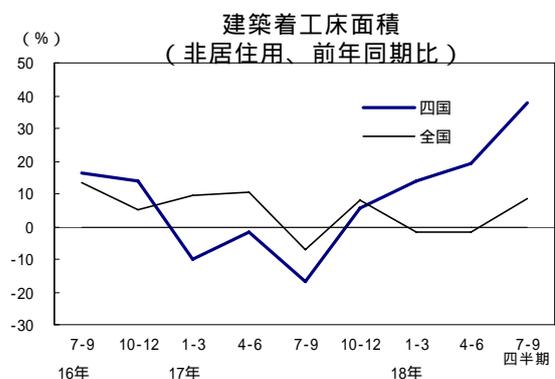
「大型クレーンの総需要は19か月連続で前年超となり、需要の上回りが常態化し、納期の長期化傾向が続いている(一般機械器具製造業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	7.8	5.4[4.3]
製造業	14.4	18.2[16.7]
非製造業	2.4	6.0[6.9]

(備考)[]は前回(6月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

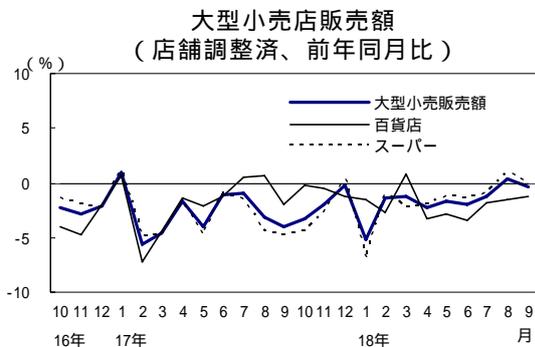
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、催事効果により和食器等の家庭用品に動きがみられたものの、梅雨明けの遅れにより来店客数が減少し、衣料品セールが低調に終わったことや、法人需要の低迷から中元ギフトが振るわなかったこと等により、前年を下回った。8月は、比較的天候に恵まれたことから、ハンカチや日傘、帽子等の季節商材が好調であったものの、催事の減少から宝飾品や時計などの高額商品の動きが鈍く、下旬も高めの気温で推移したことにより秋物衣料が低調であったことから、前年を下回った。9月は、改装効果により婦人靴やハンドバック等の身の回り品が好調であったものの、昨年の催事効果の反動から美術品、宝飾品などの高額商品が低調であったことから、6か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、四国地区の10月の売上高は、前年同月比で4.9%減となっている。

スーパーは、生鮮野菜の相場高により、主力の飲食料品に伸びがみられたことにより、全体としては前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

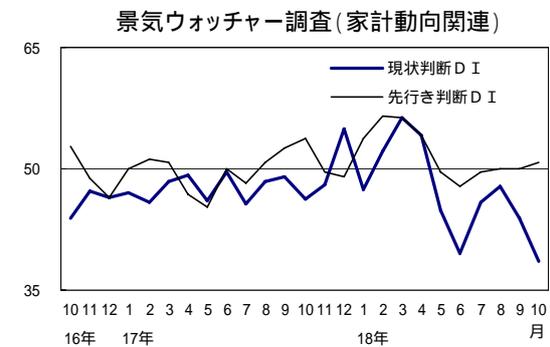
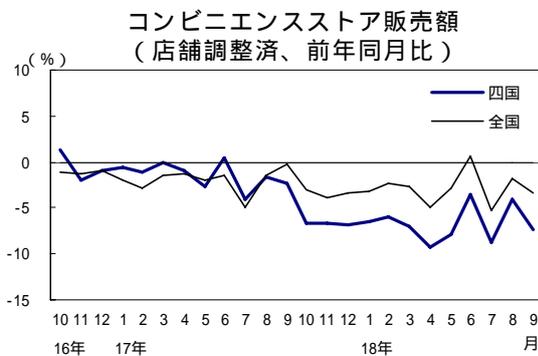
「最近3か月は、以前活発であった高額品の動きが低調である(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.7	2.8	2.0	0.5
百貨店	0.7	1.0	3.2	1.6
スーパー	2.1	3.6	1.5	0.0
コンビニ	6.7	6.5	6.9	6.6
景気ウォッチャー	49.8	52.0	46.2	45.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

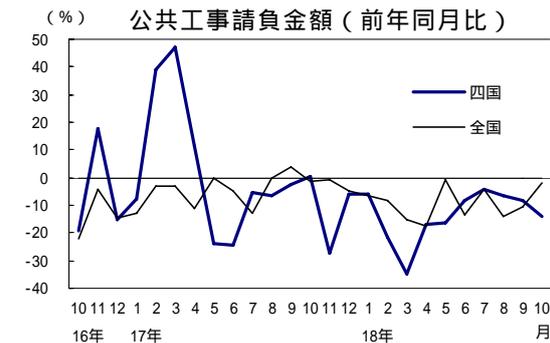
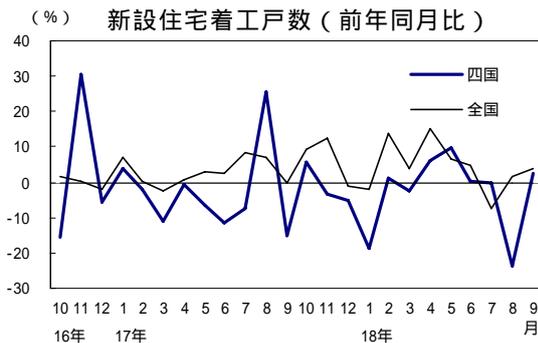
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

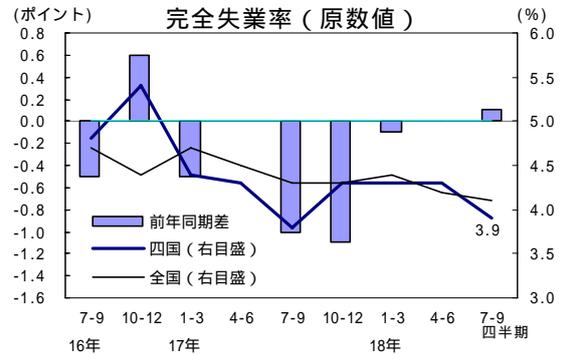
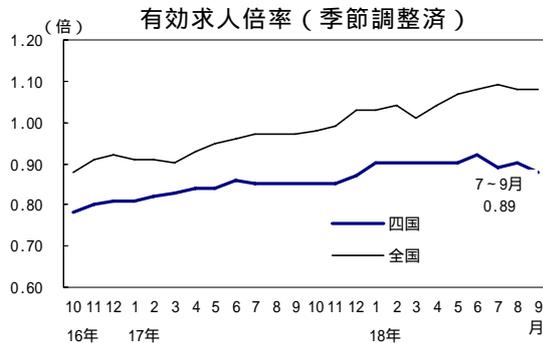


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

「企業側の採用計画はほぼ充足傾向にあり、企業側の採用条件のハードルが高くなっている。また、採用試験から合否が出るまでの期間が長くなっている(民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

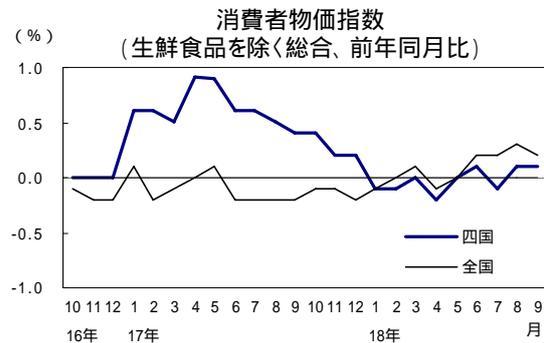
(2) 企業倒産は、件数が大幅に増加し、負債総額も増加している。

10月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月	18年10月
倒産件数	65	75	89	111	41
(前年比)	30.9	14.8	11.3	44.2	86.4
負債総額	107	221	256	442	283
(前年比)	44.8	31.4	32.1	40.3	803.2



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・最近、大型の空き店舗の跡地に、県外資本からの買収の打診が多く見られるようになっており、地価が底打ちとの認識が出てきている(商店街)

<先行き>

・工場増設の見積依頼が数件来ているが、価格競争が激しく成約には結び付かない(建設業)

景気ウォッチャー調査(合計)

